

汎用画像処理装置
FV2350-W11
画像処理用コントローラ
FV2350-C11

(for Windows 11 IoT Enterprise)

FV2350-W11

FV2350-C11

ユーザーズガイド

☆第2版☆

ご注意

- 本書の内容の一部または全部を無断で転載することは固くお断りします。
- 本書の内容について、将来改良を目的に予告なしに変更することがあります。
- 本製品がお客さまにより不適當に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたことなどに起因して生じた損害等については責任を負いかねます。
- Windows 11 IoT Enterprise, Windows 11, Windows, Visual StudioはMicrosoft Corporationの商標です。

この説明書で使われているマークについて



装置が故障しないようにするための注意、正しく動作させるための注意、重要な注意事項などを説明します。



重要な操作方法、カギとなる事項などを説明します。



操作上のヒント、特に Windows の操作方法などについて説明します。

はじめに

このたびは「FV2350-W11」「FV2350-C11」をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

「FV2350-W11」および「FV2350-C11」は組み込み用 OS 『 Windows11 IoT Enterprise 2024 LTSC 』を搭載しています。『 Windows11 IoT Enterprise 2024 LTSC 』は、FA での使用に耐えうる信頼性の高いもので、FA 現場での運用に最適化された画像処理プラットフォームです。

「FV2350-W11」と「FV2350-C11」の主な違いについて

【 FV2350-W11 】

画像処理ライブラリ WIL のライセンスが含まれています。すぐに WIL をご使用頂けます。

【 FV2350-C11 】

画像処理ライブラリ WIL のライセンスは含まれておりません。

WIL をご使用頂くには、別途ランタイムライセンスおよびライセンスキーが必要となります。

スイッチを入れる前に!!



本装置を使用する前に、本説明書を必ず熟読くださるようお願い致します。

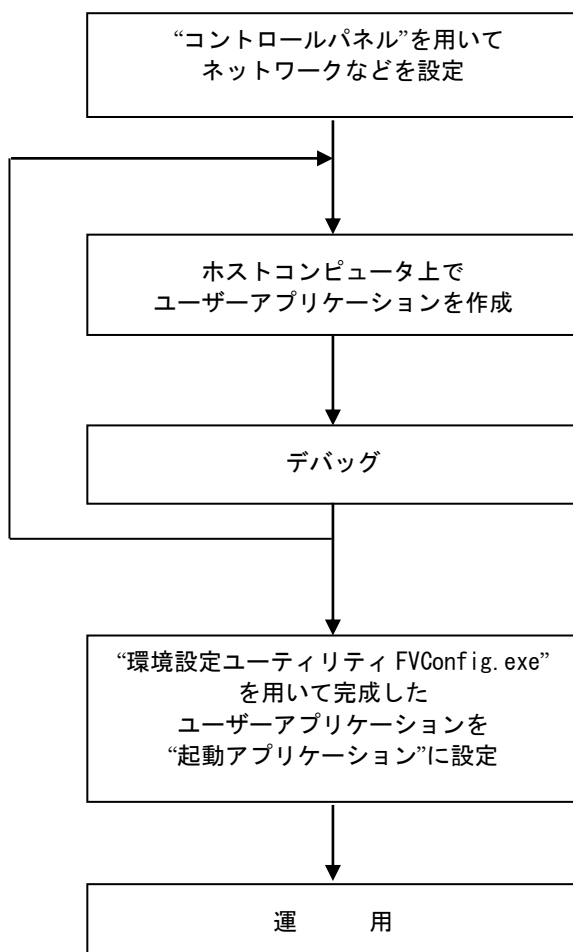
1.	運用までの行程	1
1.1	開発環境について	2
2.	起動と電源 OFF	3
2.1	起動	3
2.2	電源 OFF	3
2.3	シャットダウン	4
3.	Windows アプリケーション	5
3.1	アプリケーションの起動方法	5
3.2	使用可能な Windows アプリケーション	6
4.	Windows 11 IoT Enterprise 環境における制限事項	7
4.1	ユーザー名とパスワード	7
4.2	自動起動アプリケーション	7
4.3	仮想メモリ機能の非サポート	7
4.4	その他、見た目など	7
5.	ファイル装置へのアクセスについて	8
5.1	ドライブ構成	8
5.2	C ドライブへの書き込みアクセスの制限	8
6.	環境設定ユーティリティ FVConfig.exe	9
6.1	Write Filter	10
6.2	Start Application	11
7.	ユーザー名とパスワード	12
8.	ネットワーク関連	13
8.1	ネットワーク経由のファイルコピー	13
8.2	スタンドアローン環境では、...	15
9.	ユーザーアプリケーションについて	16
9.1	ユーザーアプリケーション作成時の注意点	16
9.2	ユーザーアプリケーションの完成後	17
10.	Trellix について	18
10.1	ホワイトリストを使用した操作手順	18
10.2	その他の操作	19

目 次

11. ライブラリのアップデート方法.....	20
-------------------------	----

1. 運用までの行程

運用までの行程をおおまかに示します。



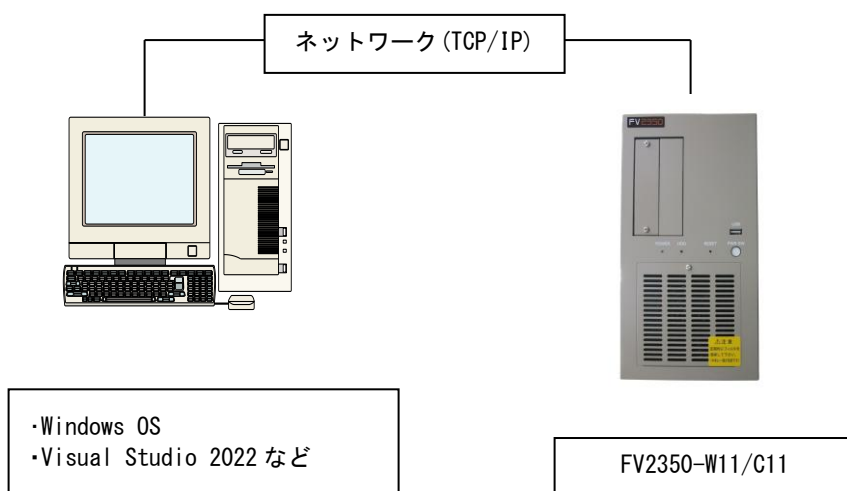
1.1 開発環境について

「FV2350-W11/C11」にはプログラム開発環境は搭載していません。

ソフトウェア開発キットがインストールされたコンピュータでユーザーアプリケーションを作成し、それを「FV2350-W11/C11」にコピーして動作させます。

お客様で必要とする機材/環境は以下のとおりとなります。

- ・ OS : Windows OS
- ・ Visual Studio 2022 などの開発環境
- ・ ネットワーク (TCP/IP)



2. 起動と電源 OFF

2.1 起動

キーボード、マウス、ディスプレイを接続し、装置前面の電源スイッチを ON にしてください。

ご購入直後は、OS が立ち上がりデスクトップが表示されます。後述の方法で自動起動アプリケーションを設定することができます。

2.2 電源 OFF

シャットダウンプロセスを実行後、自動的に電源 OFF になります。

特に、下記に示す状態の場合にシャットダウンプロセスなしに電源スイッチを OFF にすると、最悪の場合ファイルが壊れたり起動しなくなったりしますのでご注意ください。

- ・ ファイル装置へのアクセスをしているとき。
装置前面の “ ACCESS ” ランプ(LED) が点灯しているとき。
- ・ Windows が完全に立ち上がっていないとき。
(BIOS 画面やブルースクリーンのとき。)
- ・ 書き込み可能状態で起動しているとき。
(『[5. ファイル装置へのアクセスについて](#)』の項を参照してください。)



上記に反する操作を行うと最悪の場合ファイルが壊れたり、起動しなくなったりしますのでご注意ください。

※電源 OFF 後、再投入 (ON) にする場合は、30 秒以上の時間をおいてから行ってください。

2.3 シャットダウン

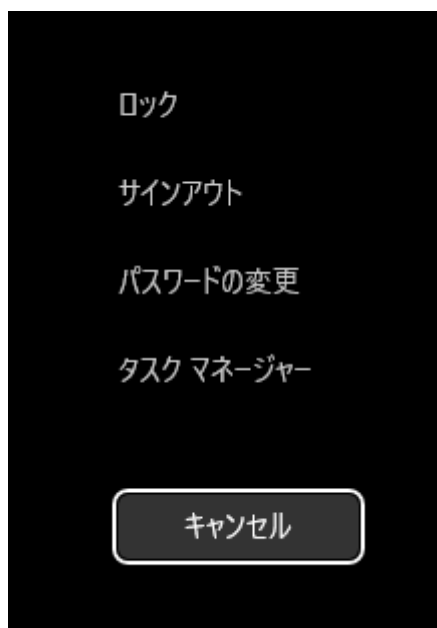
シャットダウンは以下の手順で行います。

デスクトップが表示されている場合は、通常の Windows と同様にスタートメニューからシャットダウンします。

起動アプリケーションを設定している場合など、デスクトップが表示されていない場合は、下記の手順で行います。

- ① 起動しているアプリケーションを終了します。
- ② キーボードの「Ctrl」「Alt」「Del」キーを同時に押すと以下の画面が表示されます。

※実際に表示される画面と多少異なる場合があります。



- ③ 右下のシャットダウンボタン  をクリックして「シャットダウン」を選択してください。
- ④ OS のシャットダウン終了後、自動的に電源 OFF になります。

3. Windows アプリケーション

3.1 アプリケーションの起動方法



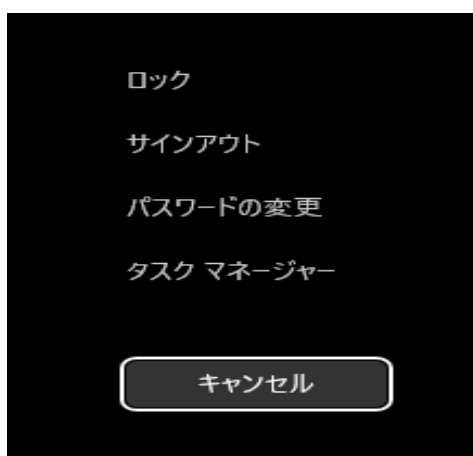
工場出荷状態ではデスクトップが表示されますので通常の Windows11 と同様の操作を行って下さい。

起動アプリケーションが設定されているなどデスクトップが表示されていない状況から他のアプリケーションを起動したいときは、タスクマネージャーを表示します。

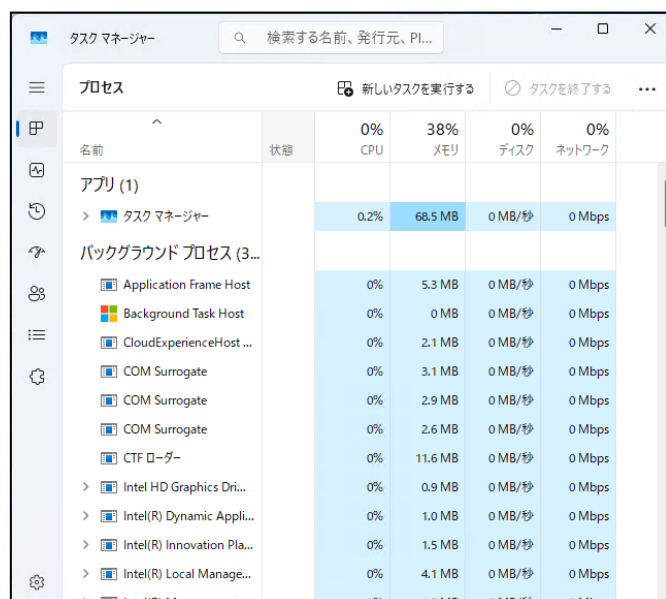
タスクマネージャーはキーボードの「Ctrl」「Alt」「Del」キーを同時に押し表示される画面から「タスクマネージャーの起動」を選択し起動します。

または、「Ctrl」「Shift」「Esc」キーを同時に押すことで、直接タスクマネージャーを起動することも出来ます。

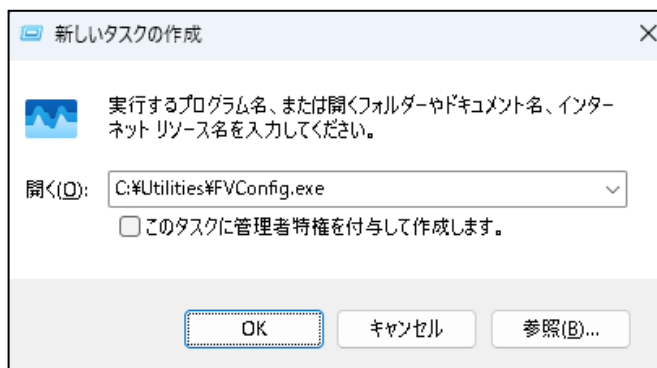
「Ctrl」「Alt」「Del」キーを同時に押します。



「タスクマネージャーの起動」を選択します。



タスクマネージャーの「新しいタスクを実行する」をクリックします。
次の図のダイアログボックスが表示され、アプリケーションを選択すると、実行可能になります。図では FVConfig.exe を起動しようとしています。たとえば notepad.exe を指定すると、メモ帳が起動し、cmd.exe を指定するとコマンドプロンプト（いわゆる DOS 窓）が起動されます。



3.2 使用可能な Windows アプリケーション

本装置で使用可能な主な Windows アプリケーションは以下のとおりです。

- ・ エクスプローラ (C:\WINDOWS\EXPLORER.EXE)
ファイルのコピー、コントロールパネルの起動、他のコンピュータの検索等に使います。
- ・ コマンドプロンプト (DOS 窓) (C:\WINDOWS\SYSTEM32\CMD.EXE)
- ・ イベントビューア (C:\WINDOWS\SYSTEM32\EVENTVWR.EXE)
デバイス、サービスのレポートを表示します。
- ・ メモ帳 (C:\WINDOWS\SYSTEM32\NOTEPAD.EXE)
- ・ タスクマネージャー (C:\WINDOWS\SYSTEM32\TASKMGR.EXE)
アプリケーションの起動、プロセスの稼動状態、メモリの使用状態を観察します。



その他、以下のアプリケーションがインストールされていますが、これらは基本的には使用しないでください。
システムに重大な支障を及ぼす場合があります。

- ・ レジストリエディタ (REGEDIT32.EXE)
- ・ コンピュータの管理 (COMPMGMT.MSC)

4. Windows 11 IoT Enterprise 環境における制限事項

4.1 ユーザー名とパスワード



ユーザー名とパスワードの初期値は以下のとおりです。

ユーザー名 : FVAdmin
パスワード : FVAdmin

本装置は電源 ON 後ユーザー名、パスワードを入力しなくても自動的に Windows にサインインします。詳細は、[7. ユーザー名とパスワード](#) をご参照ください。

4.2 自動起動アプリケーション

ご購入直後、自動起動アプリケーションは設定していません。お客様で作成されたアプリケーションを装置起動時に実行させたい場合は、ソフトウェアの完成後、ツールにて設定を行って下さい。自動起動アプリケーションの設定は後述の[「FVConfig.exe」](#)で行います。

4.3 仮想メモリ機能の非サポート

本装置ではファイル装置へのスワップアウトを排除する目的で仮想メモリ機能をサポートしていません。搭載されているメモリの範囲で使用してください。

4.4 その他、見た目など

本装置で採用している「Windows 11 IoT Enterprise」は通常の「Windows11」と見た目は同じ部分がありますが、全く同じ動作をするとは限りません。

5. ファイル装置へのアクセスについて

5.1 ドライブ構成

本装置のドライブ構成と内容は以下のとおりです。

C ドライブ : OS およびライブラリ関連システム
(DLL、デバイスドライバ、ツール類)

D ドライブ : ユーザーに開放(ユーザーアプリケーション、データ領域)

注)「マイドキュメント」の保管場所を C ドライブから D ドライブに変更しています。

5.2 C ドライブへの書き込みアクセスの制限

工場出荷状態では、C ドライブへの書き込みは有効となっております。

OS およびライブラリ関連システムの保護のため C ドライブへの書き込みに関して全て無効になるように設定する事が可能です。運用時には C ドライブへの書き込みを無効にすることを推奨いたします。

書き込みを無効にするには、環境設定ユーティリティ「[FVConfig.exe](#)」で Write Filter の設定を変更します。

C ドライブへの書き込みを無効にしている場合でも、見た目にはアクセスが成功したかに見えます。
たとえば、エクスプローラでファイルをコピーするとファイルは作成され、リード/ライトアクセス可能ですが、そのファイルはメモリ上に作成され、ファイル装置には書き込まれません。
よって次回立ち上がり時には、コピーしたファイルは存在しません。
もちろん、ユーザー作成のアプリケーションでも同じことが起こります。

ここで言う書き込みアクセスとは以下の場合です。

- ・ファイルのコピー
- ・ファイルの削除
- ・レジストリへの書き込み/変更

6. 環境設定ユーティリティ FVConfig.exe

本装置の動作環境の設定は「FVConfig.exe」で行います。「FVConfig.exe」は以下のフォルダにあります。

C:\Utilities

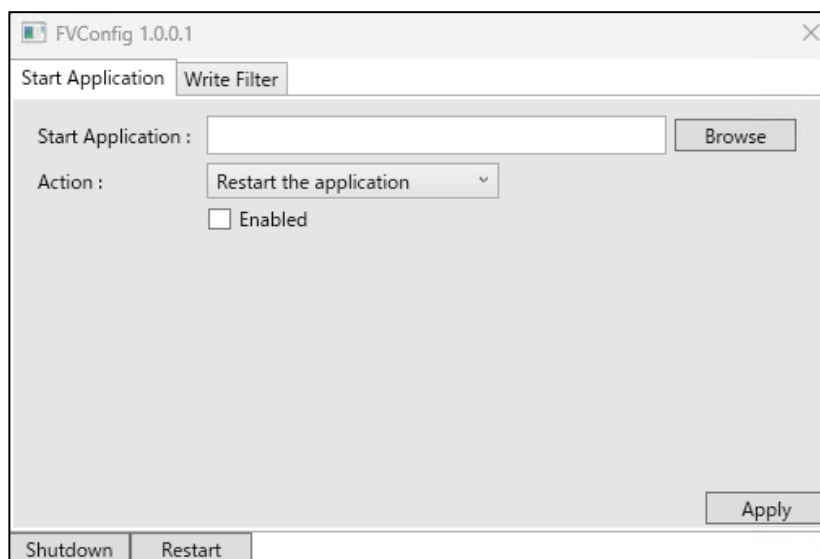
「FVConfig.exe」で設定可能な項目は以下のとおりです。

- ・ Start Application
自動起動アプリケーションの設定
- ・ Write Filter
Cドライブの書き込み有効/無効設定



「FVConfig.exe」を用いて設定を変更する場合、後述の Write Filter が C ドライブへの書き込み可能な状態でなければなりません。
また、設定は次回起動時から有効となります。

「FVConfig.exe」を起動すると下図のダイアログボックスが表示されます。
以下、それぞれの項目について説明していきます。



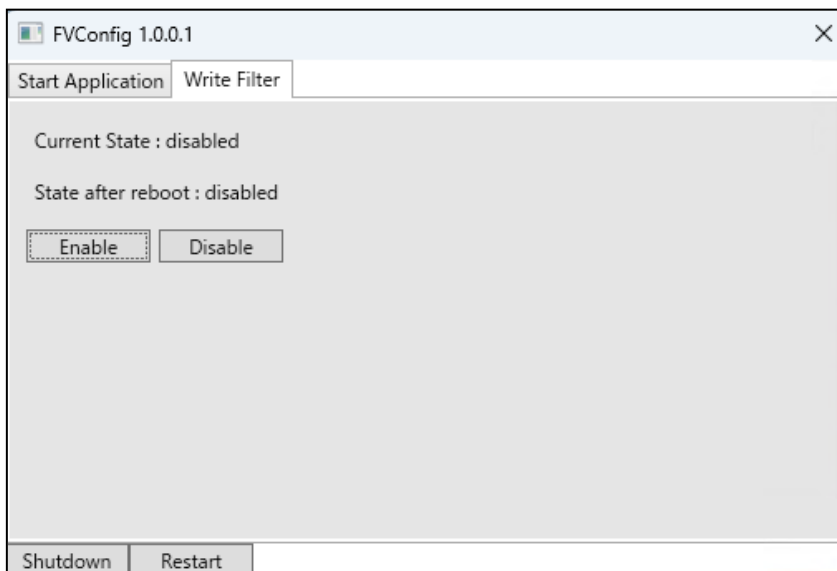
6.1 Write Filter

FVConfig.exe の「Write Filter」を選択します。

C ドライブの書き込みアクセスの設定を行います。

C ドライブの書き込みを禁止にする場合は、Enable を選択してください。

C ドライブの書き込みを有効にする場合は、Disable を選択してください。



Current State : 現在の状態を表示します。

State after reboot : 再起動後の設定を表示します。

Enable(書き込みを禁止) または Disable(書き込みを有効) を選択後、**Restart** をクリックして再起動します。
本設定は再起動後に有効となります。

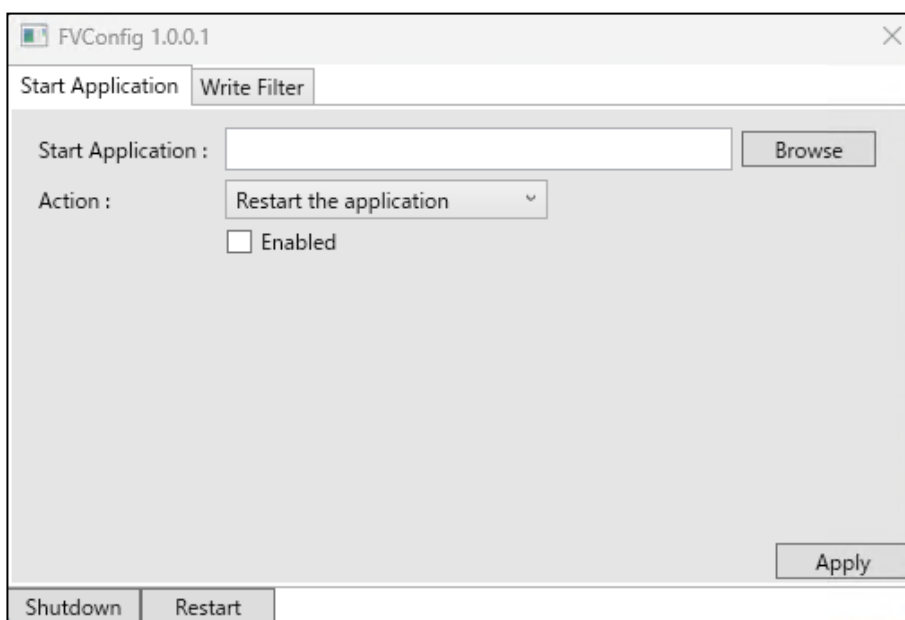
OS およびライブラリ関連システムの保護のため、運用時には C ドライブへの書き込みを禁止にする事を推奨いたします。

6.2 Start Application

本装置の起動時に自動的に起動されるアプリケーション (Start Application) と、そのアプリケーションの終了時の処理 (Action) を指定します。

- ・ 指定できるアプリケーションは1つです。
- ・ ここでの設定は次回起動時から有効となります。
- ・ Enabled がチェックされている場合のみここでの設定が有効となります。
その場合、通常のデスクトップ画面は表示されなくなります。
(スタートメニューなどが表示されない)
- ・ Enabled がチェックされていない場合はここでの設定は無効となり
通常のデスクトップが表示されます。(工場出荷状態)

下図はデフォルトの状態です。



- Start Application : 本装置の起動時に自動的に起動されるアプリケーションを指定します。
Action : Start Application 終了時の動作を設定します。
Enabled : ここにチェックが入っているとき上記設定が有効となります。

Action 一覧

Restart the application	Start Application が再起動します。
Restart the system	本装置を再起動します。
Turn off the system	本装置をシャットダウンします。
No action	何もしません。



デスクトップを表示したい場合は、...

Enabled のチェックを外して起動すると、デスクトップが表示されます。

7. ユーザー名とパスワード

工場出荷時のユーザーとパスワードは下記の様になっております。

アカウント名	FVAdmin
パスワード	FVAdmin

本装置は電源 ON 後ユーザー名、パスワードを入力しなくても自動的に Windows にサインインします。
アカウント名やパスワードを変更すると自動サインインができなくなります。



注) 有効なアカウントは工場出荷直後において FVAdmin のみです。
パスワードの変更等は、[コントロールパネル]→[ユーザーアカウント]
で行いますが、誤って FVAdmin のパスワードを失念した場合、復旧できなくなります。

FVAdmin のパスワードを変更した、新しいアカウントを作成した場合など、
あらかじめパスワードリセットディスクを作成することをお勧めします。
パスワードを忘れた場合にそのディスクを使用してパスワードをリセットすることが
できます。

[パスワードリセットディスクの作成方法]
[コントロールパネル]→[ユーザーアカウント]→[ユーザーアカウント]→
[パスワードのリセットディスクの作成]を押下します。
[パスワードディスクの作成ウィザード]が起動しますので、ウィザードに従って
パスワードディスクを作成してください。

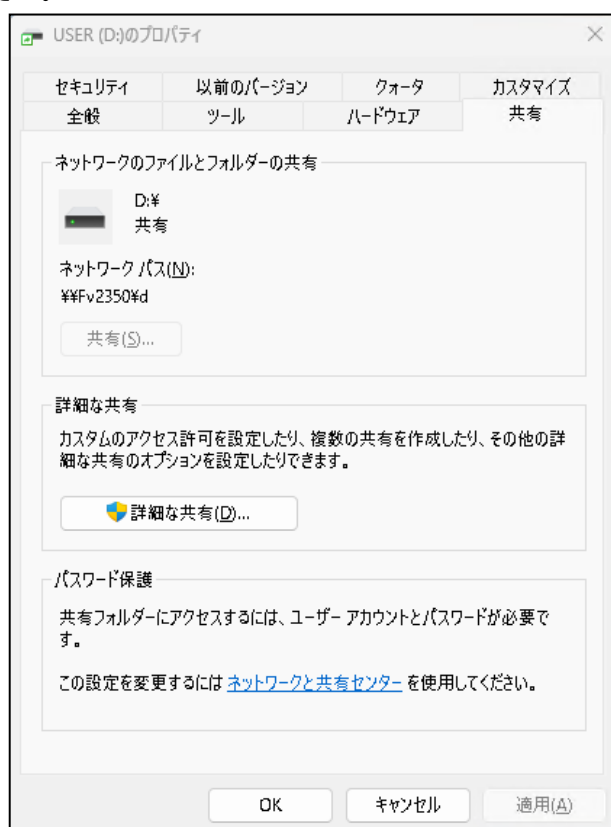
8. ネットワーク関連

ここではネットワーク関連の設定等について説明します。

8.1 ネットワーク経由のファイルコピー

ネットワーク上の他のコンピュータとのファイルのコピー方法で最も簡単な方法はネットワークコンピュータと共有フォルダを使用する方法です。工場出荷直後、Dドライブは以下の設定で共有されています。

- ① クスプローラを起動し、Dドライブを選択し、「プロパティ」→「共有」→「詳細な共有」を選択します。必要に応じて「詳細な共有」ボタンを押下し、ユーザー数、アクセス許可設定をしてください。



共有設定を変更した場合、Write Filter が C ドライブへの書き込み可能な状態でなければ、次回起動時、共有の設定の変更は反映されません。
(一時的に利用する場合は構いません。)

- ②「ホストコンピュータ」(ネットワーク上の他のコンピュータ)上で「FV2350」のコンピュータ名を探し接続します。

このとき、ユーザー名とパスワードを求められますので

ユーザー名	FVAdmin
パスワード	FVAdmin

で接続してください。

- ③¥¥FV2350¥¥D¥にアクセス可能となりますので、ファイルをコピーできます。



本装置に共有フォルダ経由でアクセスを行うときは、「ホストコンピュータ」のパスワードが設定されている必要があります。
パスワードが設定されていない場合は「FV2350」にログオンできません。

8.2 スタンドアローン環境では. . .



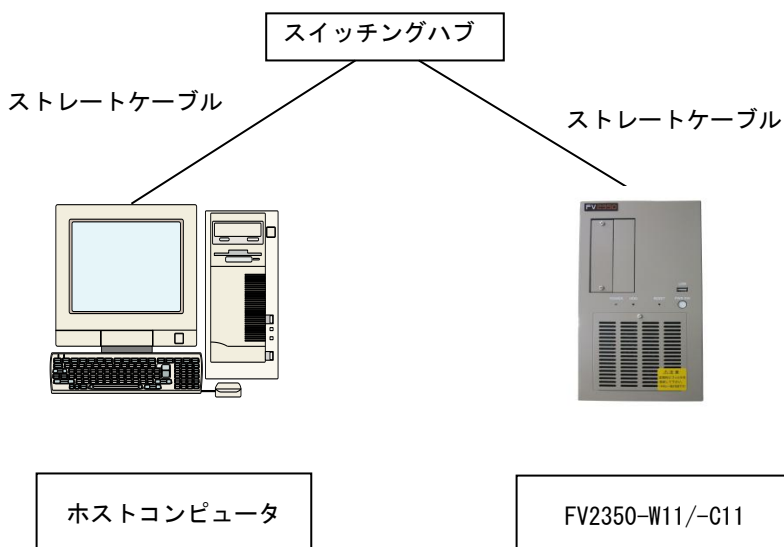
ネットワークに接続されていないコンピュータと1対1で接続したい場合は、そのコンピュータにNIC(ネットワークインタフェースカード)が搭載されていれば本装置と接続可能になります。

その場合、TCP/IP の設定は以下のように行ってください。

- ・基本的に IP アドレスの最後のオクテット(ドットで区切られた最後の数字)が異なっていれば OK です。
- ・サブネットマスクは指定のとおりを設定してください。
- ・コンピュータ名はそれぞれ異なる名前をつけてください。

ホストコンピュータ側		本装置側	
IP アドレス	: 192.168.0.1	IP アドレス	: 192.168.0.2
サブネットマスク	: 255.255.255.0	サブネットマスク	: 255.255.255.0

下図のようにスイッチングハブにストレートケーブルで接続してください。



9. ユーザーアプリケーションについて

9.1 ユーザーアプリケーション作成時の注意点



ユーザーアプリケーション作成時は以下の点に注意してください。

- ・ C ドライブへファイルを作成しない
 - Write Filter が Enabled の場合ファイルは D ドライブ上に作成する様にしてください。
 - テンポラリファイルとしての使用もしないでください。メモリ上にファイルが作成されるためメモリが足りなくなる場合があります。
- ・ ファイルのフラッシュ
 - ファイルへ書き込むプログラムを作成した場合、電源 OFF 時はできるだけシャットダウン処理を行ってください。遅延書き込みが発生した場合、ファイル装置へ書き込みが行われない場合があります。
 - また、プログラム上でバッファの内容をファイル装置へフラッシュ (強制書き込み) するような処理を付け加えた方が安全です。(FlushFileBuffers API 関数など)
- ・ メモリの確保について
 - ページングファイルを使用していないためメモリアロケーション関数の返値を厳重にチェックしてください。
 - 常にメモリの残り容量を考慮してください。
- ・ レジストリ
 - 基本的にレジストリに書き込むプログラムを書かないでください。参照のみにしてください。
 - どうしてもレジストリに書き込まなければならない場合は、Write Filter が C ドライブへの書き込み可能な状態でなければなりません。



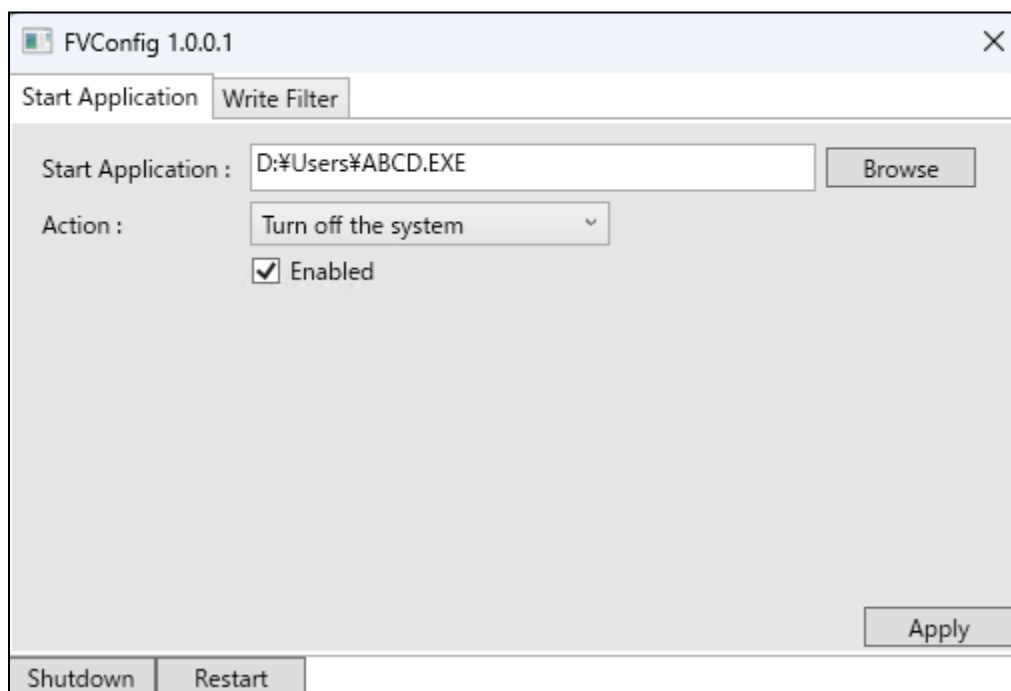
本装置には、.NET Framework4.8.1 がインストールされています。

9.2 ユーザーアプリケーションの完成後

- ・ 起動アプリケーションへの設定例
デバッグが終了したら、作成したユーザーアプリケーションを起動アプリケーションに設定します。

起動アプリケーションへの設定は、『環境設定ユーティリティ FVConfig.exe』の『』の項を参照してください。

例：Dドライブの“Users”フォルダに ABCD.EXE
という名のユーザーアプリケーションを起動アプリケーションに設定し、起動アプリケーション終了時にシャットダウンする設定です。



10. Trellix について

「Trellix Embedded Control ライセンス」は弊社画像処理装置「FV2350-W11/-C11」にオプションとしてご購入いただけるウイルス対策ソフトウェアとなっております。

ここではオプション製品、Trellix のホワイトリストを使用した操作方法について簡単に説明します。

Trellix の詳細な使用法は、Trellix 社から提供されるドキュメントをご参照ください。

ホワイトリスト方式とは・・・

あらかじめ、指定したアプリケーションのみを実行させ、ホワイトリストに載っていないものは、動作することができない方式です。定義ファイルスキャン、定義ファイル更新は必要ありません。

10.1 ホワイトリストを使用した操作手順

① 書き込み可能状態で装置を起動します。書き込み可能状態でないと設定変更が有効になりません。

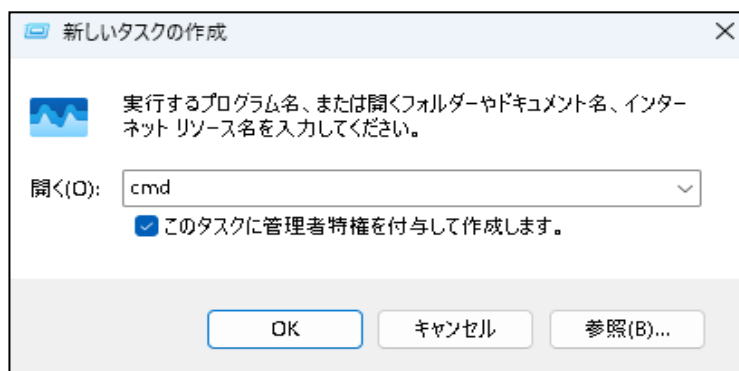
② ユーザーアプリケーションで使用するファイル一式を「FV2350-W11/-C11」に配置します。

③ コマンドプロンプトを管理者モードで起動します。

キーボードの「Ctrl」「Alt」「Del」キーを同時に押し、「タスクマネージャー」を選択します。

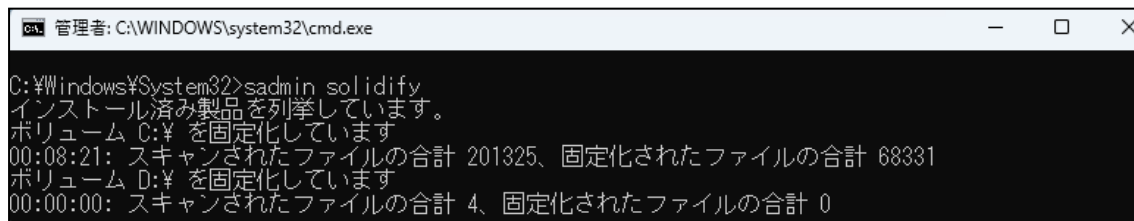
タスクマネージャーの「新しいタスクを実行する」をクリックし、「cmd」と入力し、

「このタスクに管理者特権を付与して作成します。」にチェックをして OK します。



④ ホワイトリストを作成します。

[sadmin solidify]と入力すると、現在の状態でホワイトリストを作成します。



- ⑤ 動作モードを有効にします。
[sadmin enable]と入力し、装置を再起動します。再起動後、ホワイトリストにない実行ファイルはブロックされます。

- ⑥ 必要に応じて、環境設定ユーティリティ「[FVConfig.exe](#)」で Write Filter の設定を変更してください。

10.2 その他の操作

- ・ ホワイトリストにコンポーネントを追加したい場合
`>sadmin solidify D:\Users\¥appXXX.exe`
- ・ ホワイトリストからコンポーネントを削除したい場合
`>sadmin unsolidify D:\Users\¥appXXX.exe`
- ・ 動作モードを無効にしたい場合、以下のコマンド発行後、「FV2350-W11/-C11」再起動してください。
`>sadmin disable`

11. ライブラリのアップデート方法

インストーラを使用してライブラリのアップデートが可能です。
D ドライブ等にインストーラをコピーしてインストールを行ってください。

Write Filter が C ドライブへの書き込み可能な状態でなければなりません。

修理依頼フォーム

必要事項をご記入の上、
E-mailにてお送りください。

E-mail : fast-support@teldevice.co.jp
東京エレクトロン デバイス株式会社
ファースト製品サポートデスク

年 月 日

※内容を確認した上で、送付先等ご連絡いたします。

会社名：	担当者名：
部署名：	
住 所： 〒	
電話番号：	FAX番号：
E-mail：	
製品名：	シリアルNo：

状況 または 内容	(不具合内容、操作手順、エラーメッセージなどを出来る限り詳しくご記入下さい。)
	以下、該当する項目にチェックして下さい。 パワーランプ： ☐点灯 ☐消灯 ☐つかない ファン： ☐回転する ☐回転しない 別のシステムSSDで試したか？ ☐試した ☐試していない ☐他のシステムSSDでは起動する ☐他のシステムSSDでも起動しない
再現性	☐ 常に出る ☐ 時々（頻度 ）
弊社記入欄：	

〔注〕 1. このページはコピーしてお使いください。

FV2350-W11
FV2350-C11
ユーザーズガイド

2026 年 1 月第 2 版発行

発行所 東京エレクトロン デバイス株式会社

本 社
〒150-6234 東京都渋谷区桜丘町 1 番 1 号
渋谷サクラステージ SHIBUYA タワー
TEL 03-6635-6000 (代表)

ファースト製品サポートデスク
E-mail : fast-support@teldevice.co.jp

B-003986